

教職員研究チーム活動状況報告書

代表者の所 属・職・氏名	姫路市立家島小学校 職・氏名 教諭 平野 兼伍	研究チーム名 (家島楽しい食育研究チーム)
-----------------	----------------------------	----------------------------

研究テーマ分類番号 (7)

(1) 研究テーマ
家島の子どもたちが、楽しんで食に向き合うことのできる環境づくり
(2) 研究経過及び具体的な取組
<p>■はじめに</p> <p>家島小学校は、今年、新校舎の竣工と合わせて、給食室が出来た。そして2学期から、義務教育開始64年目にして初めて、給食が実施されることになった。1学期までは、毎日弁当。もっと以前は、家に食べに帰っていた時代があると聞く。保護者・地域、また現場からの要望があり、姫路市になってから、長年に渡る希望がついに実現した形である。</p> <p>ところが、いざ給食開始が決まり、子どもや保護者の声に耳を傾けてみると、実は不安の声が多くあることがわかった。</p> <p>「偏食が激しいうちの子どもが給食を食べることができただろうか？」との保護者の声。子どもたちからは、「好きなものを家の人が入れてくれる弁当が好き。なくならないで欲しい。」「嫌いなものが出たらどうしよう。」などの声。</p> <p>また、そのように不安がる子どもたちに、給食の楽しさ、良さを伝える事が出来ないと言う家庭からの声もあった。保護者世代にも祖父母世代にも、家島で生まれ育った人たちには、給食経験者がいないためである。</p> <p>こうした現実をふまえた上で、今年度に4月から栄養教諭を迎え、9月の給食開始に向けて、職員が一体となって、楽しく食に向き合える環境作りを目指して努力してきた。</p> <p>9月からは、いよいよ給食が始まった。子ども達の様子、そして、これから目指すべき姿など、現在進行形の新しい家島の給食を中心とした食育の現状と、研究チームとしての取り組みについて、レポートしたい。</p>
<p style="text-align: center;">5月 6月 7月 8月 9月 11月</p> <p>The diagram shows a horizontal timeline with vertical bars representing activities. The bars are labeled as follows: '昨年度までの取り組み' (Activities up to last year), '児童実態調査アンケート' (Child status survey questionnaire), '給食室 見学' (School lunch room visit), '食育の職員研修' (School lunch education staff training), '高学年食育授業' (Upper elementary school lunch education lesson), '低学年生活科授業' (Lower elementary school life lesson), '給食セレモニー・試食会' (School lunch ceremony and taste test), 'アレルギー個別対応' (Allergy individual response), '給食開始' (Start of school lunch - highlighted with a thick border), and 'いずみ会交流' (Izumikai exchange). An arrow points to the right at the end of the timeline.</p>
<p>■昨年度までの取り組みを活かして ～地域の人材・素材を活かして～</p> <p>家島では、作物の栽培が盛んではない。昔は、斜面を利用した田んぼや畑もあったようだが、今では田んぼは無く、畑も大部分が姿を消している。島に幾つかある食料品の店に野菜が並ぶが、</p>

量も種類も少ない。岡山から船で売りに来る野菜やくだものが人気である。船から直接港に降ろして売られているので、観光客の目にも留まり、買っていく人をよく見かける。しかし、家島産の野菜やくだものが売られる機会は少ない。港では、魚貝類がワゴンでよく売られている。こちらは、家島の海でとれた新鮮な魚介類である。町の中にある鮮魚店でも、旬の新鮮な魚がところ狭しと並ぶ。

○いずみ会との交流

いずみ会は、家島で味噌と野菜を作っている。毎年、小学生と料理を通じた交流をしてもらっている。1・2年生は、秋のサツマイモの収穫に合わせて、お芋の料理、3年生は環境体験で養殖したアサリを使った料理、4年生は、魚をさばく体験、旬のメダカガレイを使った料理が定番化している。それに加えて、いずみ会の畑でとれた野菜のいっぱい入ったおみそ汁をいただく。

いずみ会の方と一緒にお手伝いしながらの料理。1年生でも、手を取って教えてもらいながら包丁を使う。みんなで一緒に作る料理は、大変楽しく、おいしく、普段野菜嫌いの児童でも完食できることが多くあった。

○家島自然体験センター・漁協・地元漁師さんとの交流

3年生の環境体験学習の一環として、これまで、アサリの養殖や地びき網体験をしてきた。漁協や漁師さん、また、家島自然体験センターの協力で、環境学習とともに進める活動は、大変ダイナミックといえる。地元の食材を獲るところから体験できる貴重な機会である。昨年は、養殖したアサリを使って、あさりの持つ浄化作用について学んだあと、いずみ会の人たちと料理し、あさりのパスタにして食した。本年度も同様にし、交流を進めている。

また、例年、自然体験センターでは、4年生が、坊勢小学校の4年生と交流し、一緒にカレー作りをしてきた。豚を飼っていて残飯の一部を餌にする事などを話してもらい、命と食と環境について考えるきっかけにもなっている。

■子どもの実態を掴む 5月中旬

子どもたちの実態を掴むためにアンケートを実施した。そのアンケートの結果からは、心配していたほどには、子どもたちの食に対する消極的な姿勢は見えてこなかった。

しかし、実際に子どもたちの持参する弁当は、野菜が極端に少なく、食べられるもの、好きなものしか入っていないものも多く見かけていた。保護者の声、子どもたちからの声も、給食を楽しみにするより、むしろ不安を口にする場合が多くあった。そして、不安を口にする子どもたちの個々の場合を見てみると、中には、食べられるものが少なく、食自体にあまり関心が持てず、食事を楽しく感じる事が出来ない子どももあった。また、そうした子どもの家庭からは、給食の中に食べられるものが出るか不安であるといった声や、保護者も給食経験がなくイメージできないため、楽しさを伝えられず、子どもの不安を拭えないといった切実な声も聞かれた。また、アンケートの結果をみると、子どもたちの不定愁訴の経験率が若干高いように思われた。こうしたアンケート結果と、子どもと保護者の声から、楽しんで、しっかりと食べ、健康な体づくりを意識できるよう取り組んでいくことが、家島小の食育の課題であると感じた。

そこで、不安を抱える子どもたちも、少しでも給食を楽しみにでき、食に対する興味・関心を向上できるように、学校全体で取り組んでいくことを再確認した。

■給食室の公開 5月中旬

栄養教諭の発案で、始動前の給食室を保護者にも、児童にも公開した。

給食室の公開は、坊勢小学校にむけても実施された。家島での新しい給食を経験するすべての小学生が対象となって、栄養教諭案内のもと、給食室を訪れた。写真を豊富に使って作られたパネルで、姫路市の小学校の給食の様子が展示され、その楽しそうな様子を食入るように見つめる子どもたちの姿が印象的であった。このことによって、少しずつ給食の具体的なイメージを持つことが出来、期待が膨らんでいったように感じる。

■いずみ会の畑見学⇒食育授業研究・教材作成 6月～7月上旬

昨年度までは、食事を作るところからの交流だったいずみ会。今年度は、野菜畑の見学をさせていただいた。家島で手塩にかけて育てられた野菜を使って交流しているのだということを子どもたちにより実感して欲しいとの思いからの見学であった。種類豊富な野菜が植わっている様子を子どもたちは楽しそうに見ていた。ジャガイモほりも見せてくださり、歓声があがっていた。

そして、低学年では、生活科で、苦手意識をもつ子どもの多い野菜に親しむための授業を、また、高学年では、朝ごはんについて学ぶ家庭科の授業を研究実践した。

低学年の授業の様子



畑でとれた野菜を栄養教諭が、あたたかくて、おいしいおみそ汁に。
みんなで「いただきます。」
野菜が苦手という子どもが多くいたにも関わらず、全員が完食！

やさいぼっくす
「かたくて
長くて
つめたい
です。」



「みんなといっしょに」「たのしく」学ぶと、子どもたちは、どんどん吸収し、生き生きと活動できる。食べることにしても、それが如実に現れることに気づかされた。また、自分たちのことを思って、作物を育てたり、料理を作ったりしてくださる身近な方々の存在を意識して食すことで、苦手意識を超えて「おいしい」と感じることでできる子どもたちの姿があった。楽しい給食に向けて、また一つよいイメージを共有することができた。

■給食セレモニー・試食会・初めての給食 8月下旬～9月上旬

8月26日には、多数来賓・地域の方々を招いての給食セレモニーが開催され、家島の干しえびを使ったかき揚げなど、家島給食センターの給食が初めて多くの人に振舞われた。当日は、NHKの取材に応じた地元の人が、「家島に生まれ育って、給食を食べるのは生まれて初めて。これはいい。家島の食材が使われているのがいい。」などと語られる様子が放映された。30日には、保護者の皆さんを招待しての給食試食会。配膳から片付けまで、保護者、児童、教師が一緒になって行った。そして、迎えた新学期。9月2日、台風の影響で実施が危ぶまれる中、家島小、坊勢小両校において、初めての給食が無事実施された。

■子どもの実態を掴む② 11月中旬

1学期の行ったアンケート結果を踏まえ、給食開始後の実態調査を行った。全体の傾向として、成果としては、「食べられる野菜の種類が増えた」「食事を大切に思えるようになった」などといったことが顕著だった。課題として、朝食の内容の偏りが明らかになった。今後、研究チームとしては、教材作成、授業研究等を中心としながら、地域・家庭の協力も得つつ、楽しい食育環境の更なる充実に向けて、児童や家庭に向けて、働きかけていきたいと考えている。

■成果と課題

これまで、毎日、愛情弁当を作り続けてくださった保護者の皆さんに敬意を表したい。そして、給食実施にむけての大変な準備作業に携わってくださった方々に感謝したい。

生きるための食を楽しみ、健康な体を作ることに積極的な子どもたちを育てるために、取組を続けていきたいと思う。そのためには、これまで家島小で取組んで来た地域の人材・素材を活かした食育の流れを継承することが大切である。また、給食が始まったことで、地域・保護者・学校が一体となったより良い「食育」への期待が高まっている。子どもの姿を通して、保護者・地域に発信しつつ、その期待に応えられるように取組んでいきたい。

今後は、給食開始に寄せられた保護者や子どもたちの声をこれからの家島小における食育を考えるヒントにしていきたい。

■記述アンケートより抜粋

○保護者より

「温かい食事は、やはりおいしくて、とてもいいなあと思いました。(子どもたちは)好き嫌いがあるかと思いますが、学校では食べようとするので、食べてみるきっかけになると思います。」
※食わず嫌いがとても多いということを実態把握する中で知った。給食はその打開策になるという期待を感じる。

「待ちに待った給食の試食会で、朝からワクワクする気持ちをおさえられませんでした。予想以上においしくてびっくりしました。献立もいろいろな工夫がしてあって良かったです。そして、一番嬉しかったのは、家島の食材(魚)が使われていた事です。私達の想いが伝わっていると感じながら、本当にかみしめて感謝しながら食べました。ありがとうございます。念願の家島での給食をかなえてくださって、本当に本当にありがとうございます。」

○児童より

「次の給食は、からから(からっぽ)にしたいです。でも今日もきれいなキャベツを食べられるようになりました。キャベツを食べられるようになったから、次は、ピーマンとトマトを食べられるようになりたいです。全部給食を食べて、元気に育ちたいです。もっともっといっぱいの野菜を食べられるようになりたいです。ありがとうございました。」(2年生女子)

「私は給食になるのはすごく不安でした。でも、給食を食べてみると以外においしかったです。給食は病院食みたいなものかなあと、思っていました。でも、自分が思っていたより、おいしかったので良かったです。1日目は、当番の人が入れる量が分からず足りなくなり、みんなから寄せ集めました。でも、最後にはみんなでごはんを食べられたので良かったです。完食も出来たので本当に良かったです。給食は、いやだと思っていたけど、お母さんたちも楽し、自分たちも栄養がいっぱいとれて、バランスのよい食事ができるので良かったです。」(6年生女子)

※ 給食を不安がっていた子どもも、給食ならではの共同作業的な側面などからも楽しさを見出していることがうかがえる。6年生は、給食を不安に感じる子どもが多くいた。しかし、いざ給食が始まると毎日のように完食が続いている。給食の楽しさを感じているように思える。こうした子どもの変化を保護者の皆さんとも共有し、家庭の食卓へも返していきたいと思う。初めて給食が始まったことへの目新しさや興奮もあり、好意的な感想が大半を占めているようにも思えるが、やはりそればかりではないと感じている。「食わず嫌いを克服し、苦手なものでも食べられるようになりたい。」という子どもの思いを引き出していく工夫を絶えず続けていきたいと思う。

■今後の予定 12月

◎中学年授業研究「おやつの食べ方」

◎低学年教材研究「正しいもちかたのできるおはし」